



恵まれた「水」に学び成長する。

大門町立 浅井小学校

学校長：開発 勇吉先生
指導教諭：高木 司先生
発表児童：5年1組 (8名)

浅井小学校の校区は、西に庄川が流れ、広々とした田園が広がる自然豊かな湧水地帯として知られている。全校児童数は162名。豊富な地下水を生かした「トミヨ」の飼育観察や自然観察池の整備を足がかりに、昨年、「浅井キッズワールドプロジェクト」を立ち上げた。全校児童が学年ごとに分担して、ミニ水族館の運営、かち込みによる井戸掘り、アユの養殖、藻刈りなど、恵まれた水環境を生かし、守る活動を積極的に進めている。



■ 発表テーマ ■

水のあるくらしづくり

- 5年生が、3年生のころからの水の関わりについて発表。
- 3年生のとき・・・サケの卵のふ化・観察・飼育・放流
- 4年生のとき・・・トミヨの飼育・観察
- 5年生のとき・・・井戸掘り、水辺の水族館の管理、アユの養殖プロジェクト、ミニ水田
- 6年生になったら・・・鴨川復元プロジェクト

高木先生より

命を育む浅井の宝「水」とともに輝く子供たち。

普段何気なく水道水と同じようにしか思っていなかった浅井の井戸水が、実は、魚たちの「命を育むパワーをもった水」であったことに、子供たちは気付くことができた。けれども、このきれいな井戸水が汚れてしまったら、魚たちの命が「死」に直面してしまう。さらには、人間の命も、魚たちと同じように危険にさらされてしまうことを感じ始めている。魚や植物だけでなく、わたしたち人間の命をも育む水。その大切な水を汚さないようにするために、自分たちができることは何か。周りの大人たちにどのように呼びかけていけばいいかを、子供たちは今、考えようとしている。



▲浅井キッズの元気な発表。



▲いろんなプロジェクトを紹介。



▲いろんな活動にみんなビックリ。



▲先生も真剣です。



▲これからも頑張れ浅井キッズ。

考えたこと・感じたこと

浅井の「水」を学んで、大きく成長できました。

「水」の大切さ、不思議、やさしさを身近な生物の観察や飼育により体験し、命を育む力を学びました。また、アユの飼育を通して命の大切さも知りました。かちこみ井戸をみんなで力をあわせて掘りました。これからも、各学年が浅井の水について研究して、学べる、浅井キッズワールドプロジェクトを続けていきたいです。

学習テーマの設定

3年生より「水」について研究。昭和9年の大洪水で大きな損害を受けた浅井地区。浅井の水の「大切さ」「やさしさ」「不思議さ」を3年生のころから知ることで、心豊かな成長に結びついているね。



浅井キッズワールドプロジェクトの誕生。浅井ならではの「水」に関する様々なテーマを設定し、みんなで研究・体験しました。

学習の展開

3年生～サケの養殖。養魚場より200粒のサケの卵をわけてもらい、水温の安定する学校の井戸水をつかってふ化、飼育までを観察したね。

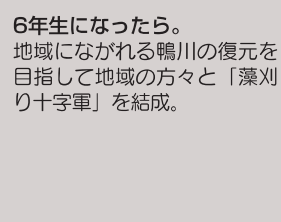


4年生～みんなでトミヨを救え。富山県の危急種魚の「トミヨ」。本来はきれいな川に生息するトミヨを学校内で観察、飼育しました。

5年生～わくわくフィッシュランド。18個の水槽で、25種類の庄川水系の淡水魚を飼育。大きな水槽での飼育は大変だけど、みんな協力して頑張ってるね。



かちこみ井戸に挑戦。5・6年生が中心となり、井戸掘りに挑戦。1年半以上かけて、井戸が出たときの感動は、一生忘れられないね。



6年生になったら。地域にながれる鴨川の復元を目指して地域の方々と「漂刈り十字軍」を結成。